

利用案内

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日・休日の翌日
年末年始(12月28日～1月3日)
- 入館 無料

新潟市文化財センター (まいぶんポート)

NIIGATA CITY CENTER FOR CULTURAL HERITAGE

〒950-1122 新潟市西区木場2748-1
TEL 025-378-0480 FAX 025-378-0484
Email bunkazai@city.niigata.lg.jp

交通アクセス



- お車で越しの方
北陸自動車道黒埼スマートインターを北へ約9分(2.9km)
新潟西インターを南へ約16分(6.0km)
- 電車をご利用の方
JR新潟駅から車で約39分(14.4km)
JR越後線 寺尾駅から車で約18分(6.1km)



新潟市文化財センター



新潟市文化財センター

NIIGATA CITY CENTER FOR CULTURAL HERITAGE



CONTENTS

- ① ② コンテンツ
設置・設置の目的
- ③ ④ 発掘調査
- ⑤ ⑥ 整理・保存処理
- ⑦ ⑧ 収蔵・保管
- ⑨ ⑩ 展示・公開・普及
- ⑪ ⑫ 施設概要・各階案内
- ⑬ ⑭ 新潟市指定文化財
民家旧宅(旧武田家住宅)
畜動舎

新潟の地下には、豊かな歴史が、

そのまま埋もれている!!



NIIGATA CITY CENTER FOR CULTURAL HERITAGE



設置

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第30条の規定に基づき、設置された教育機関です。

設置の目的

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から近世に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17(2005)年の14市町村の広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増加しています。
当センターは、各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、出土遺物の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために設置されました。
センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定有形民俗文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。

エントランス
エントランスには、縄文時代から明治時代までの代表的な土器を時代順に展示してあります。展示ケースには直近の発掘調査の成果や注目される遺物の展示をしています。

発掘調査

道路工事や建物の建設工事などの開発が行われる場合に、新潟市教育委員会では事前に発掘調査を行って、失われる遺跡の記録を残しています。

また、古津八幡山遺跡や菖蒲塚古墳などの重要な遺跡については史跡に指定し、当時の姿に復元する整備工事を行っています。



愛宕沢遺跡



四十石遺跡



御井戸遺跡



山谷古墳



菖蒲塚経塚

原遺跡

発掘作業

1 表土掘削



人力や重機で遺物(土器や石器など)が出る深さまで掘り下げます。

2 いぶつぼうがんそう 遺物包含層の調査



移植ゴテなどを使って手作業で掘り下げていきます。出土した遺物は位置などを記録してから取り上げます。

3 遺構を探す



地面を薄く削り取るように掘り下げ、土の色調や硬さなどの違いから、建物や溝などの遺構を探します。

4 遺構の発掘



遺構の中の土の堆積を観察するため、半分残したり、アゼを残したりしながら慎重に掘り下げます。

5 記録 (測量調査) 写真撮影



遺構の中の土の堆積状況や全体の形などを測量し、図化するとともに写真を撮影します。



- 新潟市の遺跡
- … 旧石器～縄文時代
 - … 弥生～古墳時代
 - … 飛鳥～室町時代
 - … 安土～江戸時代
- ※遺跡の一番古い時代を示しています。
- ★ … 新潟市文化財センター

整理・保存処理

発掘調査により出土した土器や石器などの出土品（遺物）はまず水洗いをし、全ての破片に出土位置を注記します。その後、破片を接合して復元していきます。報告書に掲載する遺物は実測図を作成し、写真の撮影を行います。木器や金属器などの脆弱な遺物については、樹脂を含浸したり、錆を落とすなど、保存処理室でそれぞれの材質にあわせた理化学的な保存処理を行います。



駒首湯遺跡



遺物洗浄室



駒首湯遺跡



沖ノ羽遺跡



笹山前遺跡



調査研究室



緒立遺跡

整理作業

1 水洗



遺物に付いている土や汚れを歯ブラシやハケで丁寧に洗い落とします。

2 注記



遺跡の名称や出土した位置・層位などを遺物に書いて、どこから出たのか分かるようにします。

3 接合



割れて破片になっている遺物は接合して復元します。

4 実測



遺物の形や模様などを細かく観察して図面にします。

5 報告書作成



遺構や遺物の図面・写真などをまとめて、調査成果とともに発掘調査報告書を作成します。



的場遺跡



古津八幡山遺跡



ピロティ木器水槽



木器保存処理室



金属器保存処理室



写場

収蔵・保管

整理復元された遺物や発掘調査の図面・写真などは、地域の歴史資料として活用するために、永久に保存していかなくてはなりません。土器などの遺物は分類して、展示や貸出等の活用に対応できるように収蔵保管しています。埋蔵文化財収蔵庫にはプラスチックケース(60×40×15cm)で4万箱の収蔵が可能です。

木器や金属器などの遺物は保存処理を行った後に、特別収蔵庫で温度・湿度などの管理のもと収蔵保管しています。また、図面や写真フィルム・CDやDVDなどの記録類も、資料収蔵庫で温度・湿度などの管理のもと収蔵保管しています。

図書室では新潟市のほか全国で刊行された発掘調査報告書などの考古学・歴史関係図書を中心に収蔵保管しています。

民俗資料収蔵庫には、合併前の旧新潟市・旧黒埼町の民俗資料を収蔵保管しています。



大沢遺跡



埋蔵文化財収蔵庫(2F)



御井戸遺跡



馬場屋敷遺跡



埋蔵文化財収蔵庫(3F)



特別収蔵庫1(木器)



特別収蔵庫2(金属器)



的場遺跡



御井戸遺跡



馬場屋敷遺跡



資料収蔵庫



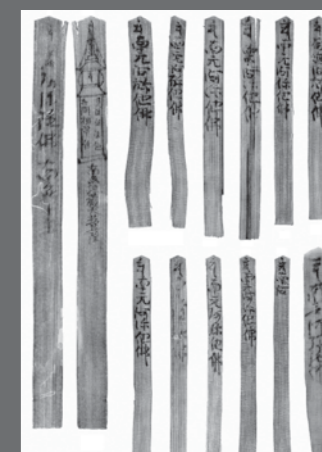
緒立遺跡



図書室



四十石遺跡



浦廻遺跡



民俗資料収蔵庫

特別収蔵庫

特別収蔵庫は遺物の保存のために、温度・湿度・照度を下記のように設定してあります。

設定値	特別収蔵庫1(木器)		特別収蔵庫2(金属器)	
	夏季	冬季	夏季	冬季
温度	26℃	22℃	26℃	22℃
湿度	50~60%		40~50%	
使用光源	UVカット型蛍光灯		UVカット型蛍光灯	
照度	200ルクス		200ルクス	

資料収蔵庫

資料収蔵庫は写真フィルムや図面の保存のために、温度・湿度・照度を下記のように設定してあります。

設定値	通年
温度	20℃
湿度	40%
使用光源	UVカット型蛍光灯
照度	200ルクス

展示・公開・普及

埋蔵文化財は国民の共有財産です。整理作業が終了したものは収蔵保管するだけでなく、展示などによって広く公開をしています。

展示室では、市内出土の資料を中心に、土器や石器のほか、低湿地から出土した木器も展示しています。

また、遺物の収蔵の様子も見ることができます。

考古学講座や土器作りなどの体験学習を研修室で行うことができます。体験学習は職員だけでなくボランティアの皆さんにご協力いただけるようにボランティア室を備えています。



展示室



発掘作業のジオラマ



研修室



体験学習の様子



ボランティア室



講演会



現地説明会

設定値	夏季	冬季
温度	26℃	22℃
湿度	50~60%	
照度	展示壁面	50~200ルクス
	展示物	50~200ルクス
	平均	100ルクス

展示室

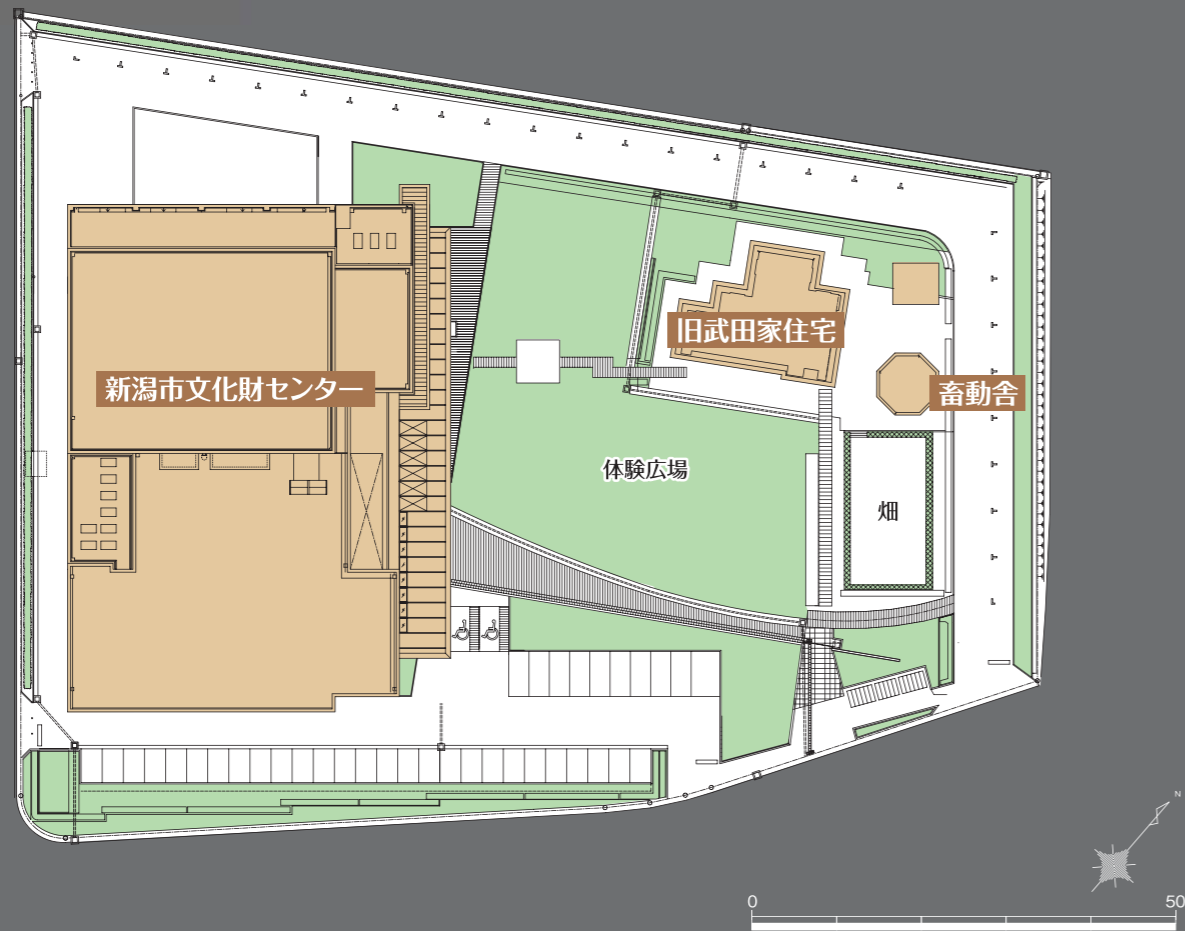
展示室は、展示品(特に木器や金属器)の保存のために、温度・湿度・照度を下記のように設定してあります。

**

**

**

施設概要



新潟市文化財センター 施設の概要

区分	H18年度	H19年度	H20年度	継続費		合計
				H21年度	H22年度	
文化財センター	基本計画	基本設計・地質調査・用地測量等	実施設計・展示実施設計等	建設工事・展示工事・周辺整備実施設計・工事等	建設工事・展示工事・周辺整備工事・初度調分等	
旧武田家住宅	現況調査	解体調査工事	組立実施設計	復元整備工事	復元整備工事	
合計	9,296	41,502	40,564	403,007	1,481,324	1,975,693

(単位:千円)

所在地 新潟市西区木場2748-1他
主要用途 展示室、収蔵庫
文化財センター設計・監理 山下設計
文化財センター施工 小川組
建築 友和・イーイーケイ特定共同企業体
電気 丸高工業
空調 新潟企業
衛生 北陸ガス
旧武田家住宅施工 松井建設
電気 電友舎
衛生 新潟企業
設計期間 2007年10月～2009年3月
工事期間 2009年7月～2011年1月

建築概要
 敷地面積 9,916.00㎡
 文化財センター本館
 構造・階数 / RC造 地上3階
 建築面積 / 2,559.25㎡
 延床面積 / 4,494.83㎡
 旧武田家住宅
 構造・階数 / 木造 地上2階
 建築面積 / 167.7㎡
 延床面積 / 208.19㎡
畜動舎
 構造・階数 / 木造 地上1階
 建築面積 / 34.92㎡
 延床面積 / 34.92㎡
小屋
 構造・階数 / 木造 地上1階
 建築面積 / 26.48㎡
 延床面積 / 26.48㎡
建ぺい率 26.07% (許容70% 角地加算)
容積率 45.59% (許容200%)
最高高さ 文化財センター:13.5m、旧武田家住宅:8.824m
軒高 文化財センター:12.76m、旧武田家住宅:2.76m
階高 4.0m
天井高さ 2.6～3.05m(展示室4.0～6.6m)
主なスパン 7.2m×7.75m
道路幅員 7m
駐車台数 27台
地域地区 市街化調整区域

設備概要
電気設備 受電方式 / 高圧6.6kV専用受電、地中埋設管路引込、屋内閉鎖型薄型キュービクル 変圧器容量 / F種油入変圧器(トランジスター対応高効率型)、1φ100kVA、3φ300kVA 予備電源 / 太陽光パネル5.7 kVA(屋上)、外部非常電源接続盤
空調設備 空調方式 / GHP+全熱交換器、EHP
衛生設備 給水 / 飲用・受水・加圧給水方式 洗浄水・雑用水・加圧給水方式 給湯 / 局所給湯方式(屋外型瞬間湯沸器) 排水 / 屋内汚水雑排水分流方式、合併式浄化槽
防災設備 消火 / 屋内消火栓、窒素ガス消火設備、消火器排煙 / 自然排煙
 その他 / 自動火災報知設備、非常放送設備
昇降機 機械室レス兼用13人乗(900kg・45m/分)×1基(バリアフリー対応)、機械室レス荷物用(1,000kg・45m/分)×1基
主な外部仕上げ
屋根 アスファルト防水外断熱押入工法
外壁 セーラー質二丁掛タイル、外装用高耐候性左官、コンクリート化粧打放しフッ素樹脂クリア塗装
外構 磁器質450×900タイル模様貼、御影石、改良野芝(エルトロ)
建具 木アルミ複合カーテンウォール、アルミサッシュ、アルミドア
主な内部仕上げ
エントランスホール 床 / 磁器質450×900タイル模様貼 壁 / 内装用左官材荒壁調仕上げ、内装用左官材漆喰調仕上げ、コンクリート化粧打放し 天井 / GB-R t9.5+t12.5EP、岩綿吸音板、コンクリート化粧打放し
展示室 床 / タイルカーペット 壁 / GB-R t15+t15EP 天井 / 岩綿吸音板EP
会議・研修室 床 / 天然リノリウム 壁 / ビニルクロス、遮音移動間仕切 天井 / リブ付岩綿吸音板
特別収蔵庫 床 / 両面アルミシート張不透湿防水合板+プナフローリングt15 鋼製床組H180 壁 / 両面アルミシート張不透湿板+調湿パネルt16、スプルス見切り額縁、二重壁W200 天井 / 両面アルミシート張低ホルマリン合板+ロックウォール系調湿板t12 什器 / 中量型移動ラック(免震タイプ)
埋蔵文化財収蔵庫 床 / 防塵塗装 壁 / 断熱材兼用型セラミック混入木片繊維板現し、水性調湿塗装 天井 / 直天井の上、水性調湿塗装 什器 / 中量型移動ラック
特記事項 室名表示板 / 新潟漆器角盆加工

各階案内 (新潟市文化財センター 面積一覧)



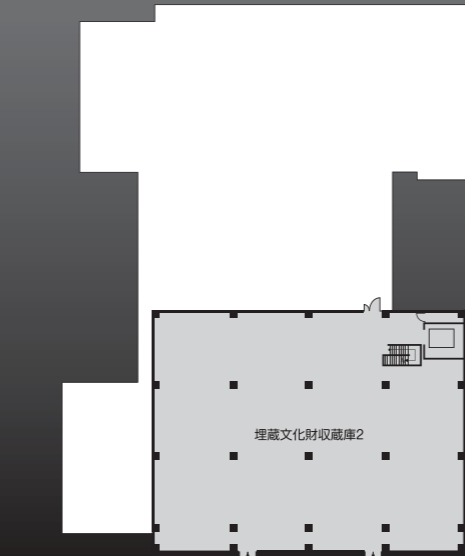
1階
1 floor

室名	面積(㎡)
特別収蔵庫 1	147.77
特別収蔵庫 2	24.63
民俗資料収蔵庫	416.58
展示室 1・2	262.81
研修室 1・2	139.95
研修室用倉庫	40.49
木器保存処理室	62.71
金属器保存処理室	61.50
荷解・搬入室	227.78
事務室	25.03
更衣室	36.52
電気室	23.58
機械室 1・2・3	103.83
その他	557.36
小計	2,130.55



2階
2 floor

室名	面積(㎡)
埋蔵文化財収蔵庫1	743.32
資料収蔵庫	48.85
図書室	89.33
調査研究室	350.50
遺物洗浄室	40.51
写場	38.84
会議室	18.95
ボランティア室	18.48
機械室 4	8.19
その他	253.50
小計	1,610.47



3階
3 floor

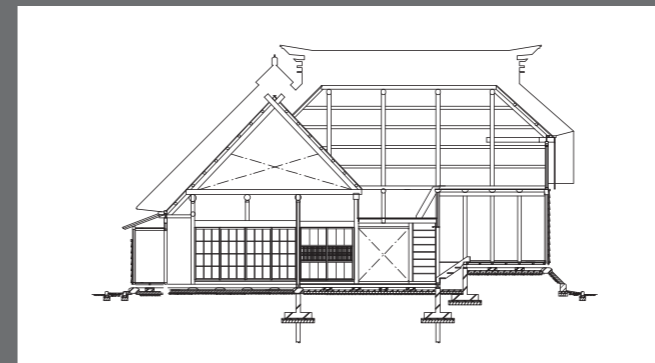
室名	面積(㎡)
埋蔵文化財収蔵庫2	736.11
その他	17.70
小計	753.81

合計
total

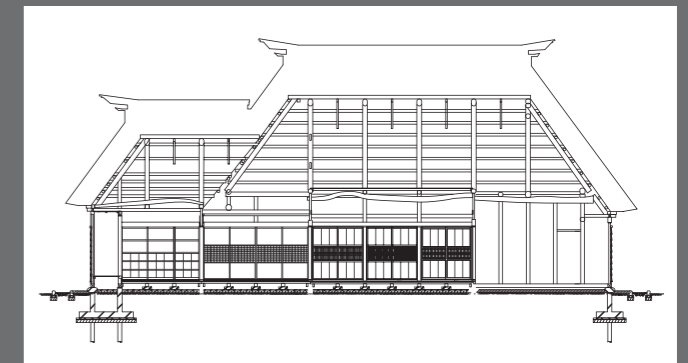
4,494.83㎡

管理・収蔵ゾーン

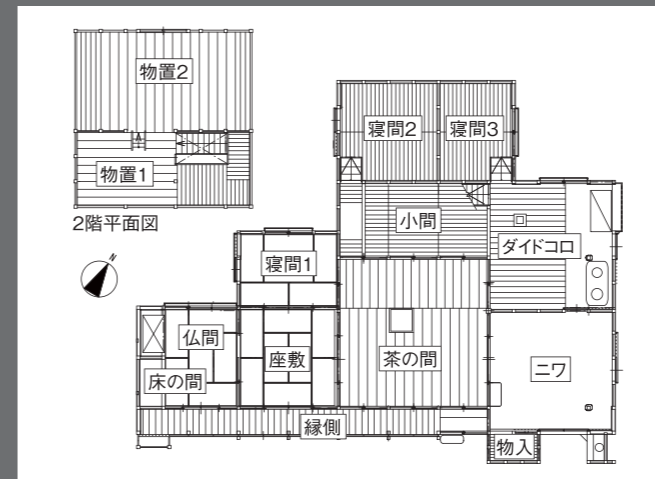
新潟市指定文化財 民家旧宅(旧武田家住宅)・畜動舎



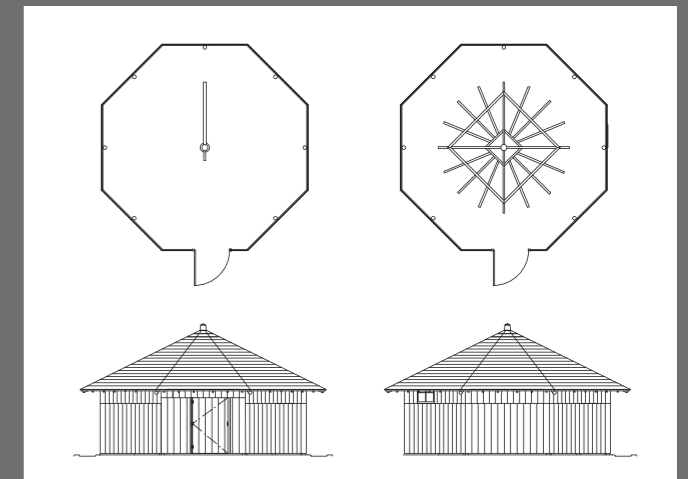
旧武田家住宅梁間断面図



旧武田家住宅桁行断面図



旧武田家住宅1階平面図



畜動舎

【旧武田家住宅】

武田家の先祖は、甲斐国武田一族の武将が越後に逃れ、曾根(旧西川町)に高橋姓を名乗って百姓となり、その子初代源助の代に割元役となったと伝えられています。

そして、またその子の源助(2代目高橋源助・代々襲名)も割元役を務め、地域の開発に尽力しましたが、天和元年(1681)処刑されてしまいました。その妻と長子は、小中川(現燕市)に逃れて、そのおよそ30年後、木場村(現西区木場、旧黒崎町木場)に移住しました。その後建てられたものが現在の旧武田家住宅であると伝えられ、明治時代に入って座敷と裏中門が建て増されたと考えられています。

昭和45年(1970)4月、黒埼地域における裏中門造りの代表的な民家として、旧黒崎町(当時は黒埼村)の有形民俗文化財に指定されました。翌年、武田家が住宅の全面改築を実施するにあたり、村では武田源助氏からの寄贈を受けて緒立八幡宮脇(現在の新潟市西区緒立流通2丁目)に解体移築・整備し、昭和47年(1972)4月、黒埼常民文化史料館として開館しました。平成23年に文化財センターの敷地内に解体移築したものです。

「ダイドコロ」と「小間」の奥には床高を上げて中2階建てとした「寝間」が2室あります。この地域(西蒲原の低湿地)では信濃川・中ノ口川の破堤により、たびたび水害に見舞われました。「裏中門」には、洪水に備えた防災の知恵がよく表れています

【畜動舎】

畜動舎は、明治から昭和初期にかけて蒲原平野の農家の多くに備えられていた牛馬を使う脱穀施設です。電力の導入とともに急激に減少し、現在ではほとんど見られません。旧黒崎村あたりでは「カラカサ小屋」と呼ばれることが多かったようです。昭和47年8月に新潟市天野の桑野正司氏より寄贈され、黒埼常民文化史料館として旧武田家と共に一般公開されてきました。

この畜動舎は大正10年頃～昭和12年頃まで実用され、西区板井(旧黒崎町大字板井)の木工、荻野氏が製作したと伝わっています。

